

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	科学技術と国際政治		
英文授業科目名	International Political Science		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	梶浦 篤		
居室	東1-511		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kajiura@hc.uec.ac.jp	なし

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>科学技術も国際政治も、戦争の防止と平和の確立が、その主目的に含まれるべきと言えましょう。この授業では、戦争の実体を分析すると共に、世界平和を達成するためにはどうすればいいのかということ、皆で一緒に探っていきたいと思います。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
「政治学A」および「政治学B」、または「政治学」

<b>【教科書等】</b>
<p>テキスト：高柳先男 『戦争を知るための平和学入門』 筑摩書房、2000年（1200円）。</p> <p>このほか、プリントも配ります。</p>

【授業内容とその進め方】

19世紀のプロイセンの軍人クラウゼヴィッツは、戦争は政治の延長であると言いました。しかし、現在では、戦争は政治の失敗であるべきでしょう。なぜならば、まず、科学技術の発達により、兵器の残虐性とそれに伴う戦争による犠牲が、飛躍的に増大し、最悪の場合は、地球の全滅にもなりかねなくなったからです。さらに、国際世論の力が強まってきたことが、戦争を始めることにより失う国際的信用の度合いを増加させているからでもあります。

また、平和と言え、かつては国家間に戦争がないこととされてきましたが、現在では、人間の安全保障が確立されていること、すなわち人々が暴力、支配、搾取、差別、貧困から解放され、幸福に暮らしていることと、考えられるようになってきました。

授業では、テキストや時事問題を題材にして、世界の平和を確立するためには、我々はどのように考え、行動していかなければならないのかということ、皆で一緒に探っていきたいと思います。

授業は、受講者数や受講者の希望によって、ゼミ形式とするか講義形式とするかを決めます。

ゼミ形式となった場合は、参加者の数によって多少の変更もあり得ますが、各自最低1回、テキストの20ページ程度をまとめて報告し、これを受けて皆で討論をしながら、理解を深めていくということになります。

講義形式となった場合でも、皆さんにより深く考えてもらうため、時々こちらから指名して意見を求めることもあります。その時は積極的に答えて下さい。

いずれにせよ、予習として、参加者全員が事前にテキストを読んできてもらうことが前提となります。討論では、様々な意見（異見）が飛び交うことが望まれます。従って、留学生や社会人学生の参加も、大いに歓迎します。

概ね、テキストに沿って授業を進めますので、テキストの目次を参照してください。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ゼミ形式となった場合は、講義とは異なり、受身ではなく、皆さん自身が積極的に発言することが求められます。評価は、(1)報告の内容、(2)発言の内容、(3)出席の状況を、中心に行います。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要条件となります。

講義形式となった場合は、レポートによって評価します。課題は論述式です。詳しくは追って通知します。

評価基準は、一概には言えませんが、おおよそ以下のようなことが目安となりましょう。ただし、ゼミ形式であるなら、全回出席の場合です。

秀(S)：授業で扱ったテーマについて、opinion leader になれるとみなされる。

優(A)：授業で扱ったテーマについて、自分自身の意見を持っているとみなされる。

良(B)：授業で扱ったテーマについて、よく理解しているとみなされる。

可(C)：授業で扱ったテーマについて、基本的なことは理解しているとみなされる。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じますが、事前に予約を取って下さい。

【学生へのメッセージ】

初回の授業に出席できない人は、必ずメールで連絡すること。

頭の中だけでなく、心の中でも考えましょう。

机の上で考えるだけでなく、歩いて考えることもしましょう。

身の回りのことを考えるだけでなく、地球規模でも考えましょう。

【その他】

なし